# 2022年度通常枠　災害支援事業

実行団体 事後評価報告書

## 365日災害時の食と居場所の官民連携の支援ネットワーク事業

### 特定非営利活動法人　NPOホットライン信州











# 1.目次

2. 報告書要約
3. 基本情報
4. 事業概要
5. 事後評価実施概要
6. 事業の実績
7. アウトカムの分析
8. 成功要因・課題
9. 結論
10. 本事業で取り扱った活動を発展させるための提言
11. 知見・教訓
12. 資料（別添）

# 2.報告書要約

## 365日災害時の食と居場所の官民連携の支援ネットワーク事業

2016年熊本や2019年長野台風19号で甚大な被害を受けた際、当法人は信州こども食堂ネットワークを通じて、物資配布や炊き出しなどの災害支援活動の実践経験を生かした、「365日災害時の食と居場所の官民連携支援ネットワーク事業」を実施し、県内170ヶ所の各信州こども食堂や子育て家庭や生活に困難を抱える家庭を中心に、こども食堂や家庭での備蓄（ローリングストック）など等の実践活動を展開してきました。

その結果、子どもたちや子育て家族に、災害時にも生き抜く力や困難を乗り越える力が身につくなど、多大なる成果を上げることができた。

365日
多様な災害時
連携・協働
体制構築

150ヵ所
各こども食堂
防災・激災活動
研修実践

食糧生活
用品の物流
体制の構築と
食事・ケア
の提供



# 3.基本情報

## 1. 実行団体名

特定非営利活動法人　NPOホットライン信州

## 2. 実行団体事業名

365日災害時の食と居場所の官民連携の支援ネットワーク事業

## 3. 資金分配団体名　長野県災害地域連携コンソーシアム

社会福祉法人長野県共同募金会

公益財団法人長野県みらい基金

## 4. 資金分配団体事業名

災害時の多様なフェーズ・階層・対象への地域連携モデル創出事業
～レジリエンスを強化する地域づくり～

## 5. 事業期間

2023年6月～2026年2月

## 6. 事業対象地域

長野県及び隣接県 (岐阜)

# 4.事業概要　企業・個人と「つながる力」で防災・減災活動

災害支援活動の実践を県内のこども食堂と災害弱者(生活困窮者世帯)中心に多様な団体・企業・NPOや個人等「つながる力！」で防災・減災活動を地域で展開する。

365日
多様な災害時
連携・協働
体制構築

1.　365日の多様な災害フィールドにおける多様性に配慮し、災害時における各セクションとの連携・協働のネットワーク化を図る。






150ヵ所
各こども食堂
防災・激災活動
研修実践

2.　ネットワーク加盟の170ヵ所の各こども食堂で実地研修・自地域における大小の防災・減災活動の実践を通じて、地域住民全体に対して、気づき・学びの機会を提供する。






食糧生活
用品の物流
体制の構築と
食事・ケア
の提供

3.　食や生活用品の物流ネットワークを通じた地域の防災・減災体制の構築やキッチンカーの出動を行い、食事提供の構築を図り全国モデルにしていく。





# 4.事業概要（1）～（2）災害弱者支援強化

## （1）事業によって解決を目指す社会課題

近年の風水害・地震災害では、現状把握や情報伝達、防災活動、被災者支援の遅れなど多くの課題が明らかになった。少子高齢化により地域の脆弱化が進む一方、災害弱者の保護や早期支援の具体的な方策と方向性はまだ定まっていない。さらに長期にわたる物価高で生活困窮者が増加し、相談件数は例年の2倍以上に達している。子どもや若者の自殺増加からは、コミュニティ・遊び場・居場所・心の支えの不足が浮き彫りとなり、支え合う「共助」意識も希薄化している。行政による「公助」には限界があるため、家族や身近な支援者との「共助」を強化し、官民一体で迅速かつ継続的な支援体制を構築することが急務である。

【活動の結果】 ⇒ 近年の災害や物価高騰により、災害弱者や生活困窮者への支援の遅れや孤立が深刻化している。本事業により、各地区こども食堂における官民連携と地域の共助体制が強化され、迅速かつ継続的な支援基盤の構築が進んだ。

## （2）最終受益者、直接対象グループとその人数

①信州こども食堂ネットワーク150ヵ所の各地域のこども食堂と関連する団体人数：55,000人

②最終利益者： 25,000人

【本事業の結果】⇒ 災害時や平時における食支援・相談支援体制が強化され、最終利益者25,000人が安心して支援を受けられる環境が整備され、地域における共助と自立支援の基盤形成に寄与した。

**【 成 果 】 ⇒ 災害時にも安否確認やニーズ把握を迅速に行える体制が整い、その結果、災害弱者が平時からつながりのある拠点で継続的に支援を受けられる基盤が形成された。**

# 4.事業概要（3）　災害弱者支援強化

**（3）事業の概要**

（中長期アウトカム）

・長野県内の各地域に、災害・防災対策機能が実現する、プラットフォームの構築。
・各地域の住民や官民一体と連携・協働のネットワーク化を図る。
・災害時の早期対応と災害弱者を守り、災害時における支援体制が構築される。
・子どもや災害弱者のホローとケアなど誰一人取り残さない地域社会ができていく。

【活動の結果】　⇒　本事業により、各地域で官民連携による防災支援ネットワークが形成され、災害時の食支援や相談体制が強化された。
子どもや災害弱者を支える仕組みが整い、誰一人取り残さない地域づくりが進展した。

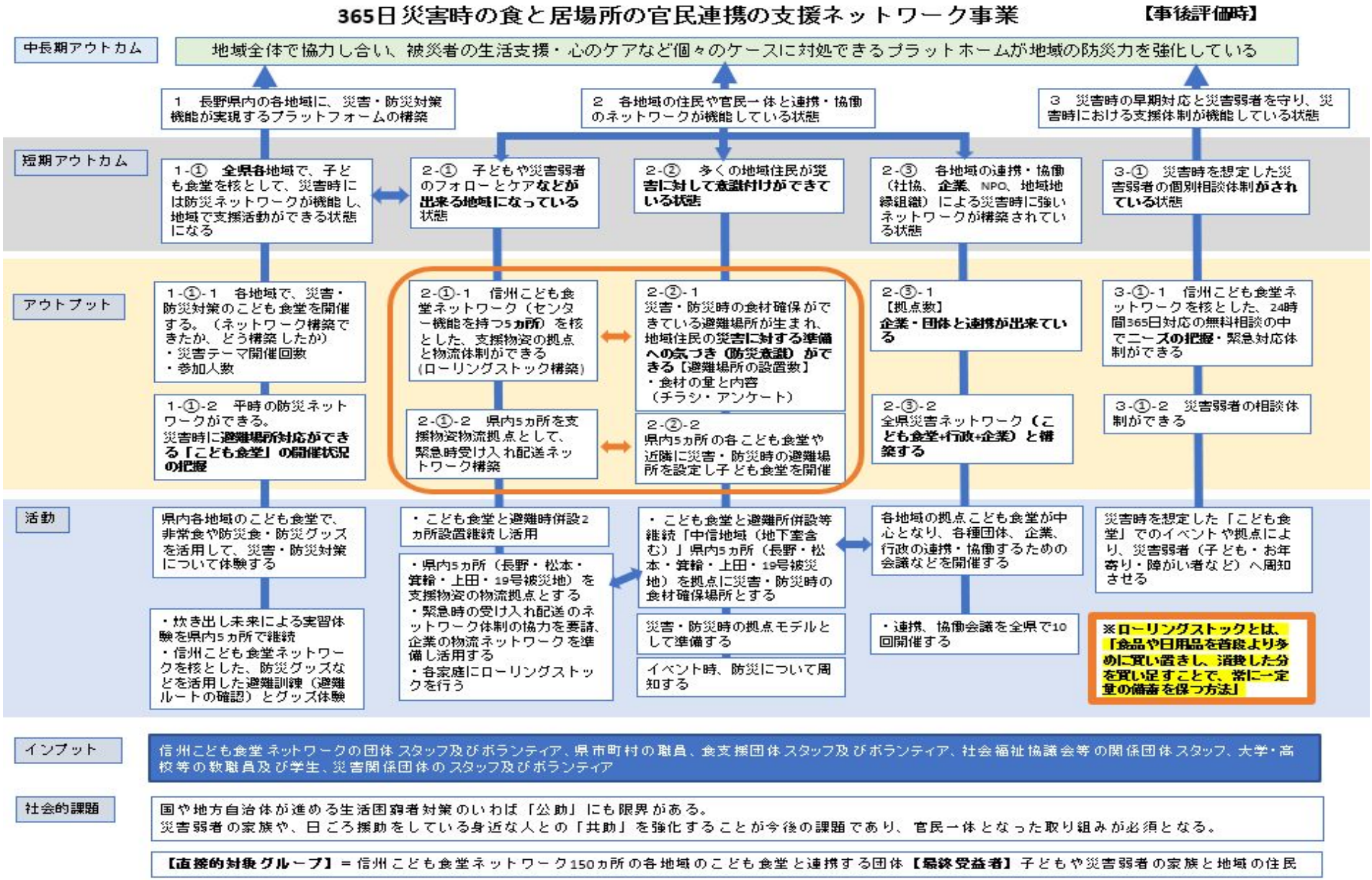
（短期アウトカム、活動の概要）

①各地域で、災害・防災対策のこども食堂の開催することで平時の防災ネットワークができる。
②信州こども食堂ネットワークを核とした、災害・防災時の避難場所と食材確保ができている状態。
③ネットワークを核とした、各地域の連携・協働ネットワーク化の構築されている状態ができる。
④ネットを核とした、24時間365日対応の災害時を想定した災害弱者の相談体制ができている状態。
⑤ネットワークを核とした、支援物資の物流ネットワーク体制の構築されている状態。

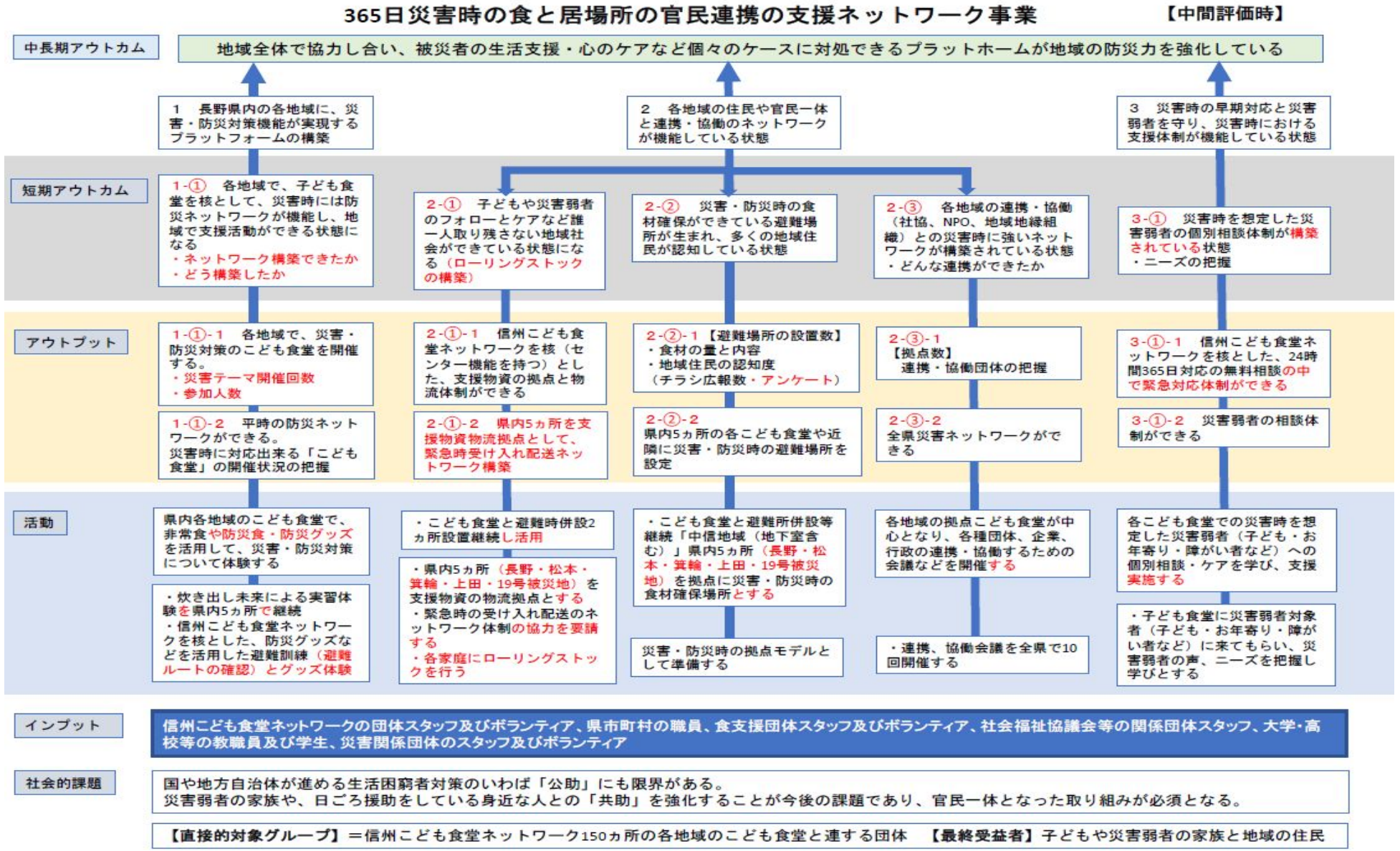
【活動の結果】⇒　本事業により、こども食堂を拠点とした防災ネットワークが各地で形成され、避難場所や物資確保、相談対応、物流体制が整備された。
平時から災害時まで切れ目のない支援体制が構築された。

**【　成　果　】⇒　地域ごとのこども食堂を拠点に、子どもや高齢者、生活困窮世帯などが継続的かつ包括的な支援を受けられる地域基盤が構築された。**

# 4.事業概要（4:事後評価時）災害弱者支援強化



# 4.事業概要（4:中間評価時）災害弱者支援強化



# 4.事業概要（4:申請時）　災害弱者支援強化

## 365日災害時の食と居場所の官民連携の支援ネットワーク事業

**中長期アウトカム**：地域全体で協力し合い、被災者の生活支援・心のケアなど個々のケースに対処できるプラットホームが地域の防災力を強化している

| | 1　長野県内の各地域に、災害・防災対策機能が実現するプラットフォームの構築 | 2　各地域の住民や官民一体と連携・協働のネットワークが機能している状態 | 3　災害時の早期対応と災害弱者を守り、災害時における支援体制が機能している状態 |
|---|---|---|---|
| **短期アウトカム** | ①各地域で、子ども食堂を核として、災害時には防災ネットワークが機能し、地域で支援活動ができる状態になる<br>・地域がどう変わったか<br>・どう準備できたか | ②-1子どもや災害弱者のフォローとケアなど誰一人取り残さない地域社会ができている状態になる<br>②-2 災害・防災時の食材確保ができている避難場所が生まれ、多くの地域住民が認知している状態<br>②-3 各地域の連携・協働（社協、NPO、地域地縁組織）との災害時に強いネットワークが構築されている状態<br>・どんな連携ができたか | ③災害時を想定した災害弱者の個別相談体制ができている状態 |
| **アウトプット** | 各地域で、災害・防災対策のこども食堂を開催することで平時の防災ネットワークができる<br>災害時に対応出来る「こども食堂」の開催状況の把握 | 信州こども食堂ネットワークを核（センター機能を持つ）とした、支援物資の拠点と物流体制ができる<br>【避難場所の設置数】<br>食材の量と内容<br>・地域住民の認知度<br>（チラシ広報数）<br>県内5ヵ所の各こども食堂や近隣に災害・防災時の避難場所を設定しモデル化する<br>【拠点数】<br>連携・協働団体の把握<br>全県災害ネットワークができる | 信州こども食堂ネットワークを核とした、24時間365日対応の無料相談<br>災害弱者の相談体制ができる |
| **活動** | 県内各地域のこども食堂で、非常食を活用して、災害・防災対策について体験する。<br>・炊き出し未来による実習体験県内5ヵ所継続<br>・信州こども食堂ネットワークを核とした、防災グッズなどを活用した避難訓練や避難ルートの確認 | ・こども食堂と避難時併設2ヵ所設置継続<br>県内5ヵ所を支援物資の物流拠点として、緊急時の受け入れ配送のネットワーク体制を構築<br>・こども食堂と避難所併設等継続「中信地域（地下室含む）」県内5ヵ所(長野市・松本市・塩尻市・上田市・箕輪町)の拠点に災害・防災時の食材確保場所を設定<br>災害・防災時の拠点モデルとして準備する<br>各地域の拠点こども食堂が中心となり、各種団体、企業、行政の連携・協働するための会議などを開催<br>・連携、協働会議を全県で10回開催する | 各こども食堂での災害時を想定した災害弱者(子ども・お年寄り・障がい者など)への個別相談・ケアを学び、支援体制の構築<br>・子ども食堂に災害弱者対象者に来てもらい、災害弱者の声、ニーズを把握し学びとする |

**インプット**：信州こども食堂ネットワークの団体スタッフ及びボランティア、県市町村の職員、食支援団体スタッフ及びボランティア、社会福祉協議会等の関係団体スタッフ、大学・高校等の教職員及び学生、災害関係団体のスタッフ及びボランティア

**社会的課題**：国や地方自治体が進める生活困窮者対策のいわば「公助」にも限界がある。
災害弱者の家族や、日ごろ援助をしている身近な人との「共助」を強化することが今後の課題であり、官民一体となった取り組みが必須となる。

**【直接的対象グループ】**＝信州こども食堂ネットワーク150ヵ所の各地域のこども食堂と連する団体　**【最終受益者】**子どもや災害弱者の家族と地域の住民

# 4.事業概要（4）　災害弱者支援強化

各地域で、
災害・防災対策のこども食堂を開催することで平時の防災ネットワークができる

【 2023年9月～ 】信州みんなの食堂
・10月星空こども食堂、生坂村こども食堂、11月朝日村・松本深志園
【2024年】
・1月上田市丸子福祉会～12ヵ所の各こども食堂で災害備蓄品や防災啓蒙活動を展開
・10月みのわの集いを「防災交流センターみのわ」にて官民25名参加で開催
　長野台風19号被災地「ながとよマルェ」1000人支援
　ハローウィンこども食堂松本3000人災害食
　多世代×防災フェス非常食の試食体験
※連日「ローリングストック」食材支援

支援物資の物流ネットワーク体制が構築されている状態となる。
子どもや災害弱者のフォローとケアなど誰一人取り残さない地域社会ができている状態。

・県内5カ所設置済み
→　まるこ福祉会＠上田市
→　信州こども食堂inしおじり＠塩尻市片丘
→　松本駅前記念公園前の信州こども食堂n松本学び塾
→　松本市寿北5丁1063-3の土地大型冷凍冷蔵庫を設置し防災時の拠点とした地区の公園の活用
→　安曇野市エルサあづみ野屋上
→　ほりでーゆ～四季の郷

**各地域の連携・協働（社協、NPO、地域地縁組織）との災害時に強いネットワーク化の構築がされている状態**

# 4.事業概要（5）　災害弱者支援強化

**（5）事業で目指した出口・持続化戦略の概要**

①防災意識の向上を図るために、災害が発生した際の個人や地域の防災意識を高めるために、
防災食育の充実により、炊き出し、食糧・生活物資が迅速かつ適切な行動がとれるようになります。
【結果】⇒防災食育の推進により住民の意識と対応力が向上し、災害時に迅速な食料・物資支援体制が定着した

②被災者への短・中・長期の支援の充実：災害によって被災した人々への支援が必要です。
具体的には、適切な避難所の設置居場所(こども食堂)や、被災者の生活支援、心のケアなどを
個々のケースに対応します。
【結果】⇒こども食堂を拠点に、生活支援と心のケアを継続的に行い、被災者一人ひとりに寄り添った
支援体制が確立された

③地域防災力の強化：災害が発生した場合、地域住民の協力が不可欠です。
地域防災力を強化することで、地域全体で協力し合い、災害に対処することができる、
プラットホーム(こども食堂)がその役割の一部を担います。
【結果】⇒プラットホーム(こども食堂)がその役割の一部を担います
こども食堂を拠点に住民同士の連携が深まり、災害時に協力し合える地域防災体制が強化された

# 5.事後評価実施概要

## （1）実施概要　①評価の目的

・アウトカムが発現するための活動が適切に実施され、アウトプットが想定どおり積み上げられているかを確認することを目的として評価を実施した。

・具体的には、防災意識の向上、連携体制の強化、相談対応力の変化を重要な指標とし、アンケート結果や実地訓練の内容を分析したうえで、支援体制の実効性および継続性の観点から総合的に価値判断を行った。

## 【アウトカム発現した貢献・阻害要因】

本事業では、防災食の試食や配布を通じて家庭内で防災について話し合う機会が生まれ、防災・減災に対する意識の向上が見られた。備蓄方法に関する相談も増加しており、食材配布の際にローリングストックの考え方を伝えることで、「食べる→補充する」という備蓄行動につながる事例も確認されている。

また、行政主催イベントへの参加や防災グッズの展示等を通じ、行政との協働体制の構築が進み、地域における防災啓発の機会が広がった。一方で、家庭の状況によって備蓄の実践には差が見られることから、行動変容を広げていくためには継続的な取組が必要である。

# 5.事後評価実施概要（1）

## ②評価結果の活用

事後評価結果は、行政・連携団体・こども食堂関係者に共有し、支援体制の改善点や成果を明確に伝える。
今後の事業計画や人材育成、連携強化に反映させ、持続的な防災支援体制の構築に活用する。

## ③評価項目と測定方法

| | |
|---|---|
| 1. 調査方法 | ・こども食堂参加者、生活支援者を対象にしたアンケート調査を行った。<br>→ 4,000家族程度のアンケート結果が集計されている。<br>物価高騰に対する生活困窮状態が浮き彫りになった。<br><br>・災害に対する「突然の災害に！わたしはどうするの」<br>アンケートを行った。（Googleフォームにて）<br>→ 2025年12月末まで624家族（約1,800人）の<br>結果が集まっている（現在も継続中） |
| 2.調査実施時期 | 1：2023年6月～（継続中）<br>2：2024年9月～（継続中） |
| 3.調査結果の検証方法 | 評価委員会と事業運営担当者らと事業の進捗状況、<br>アウトプット、アウトカムの検討を行った。 |




▲安曇野市長と事業運営担当者らの意見交換

# 5.事後評価実施概要（2）

## （2）実施体制（内部 /外部、評価担当役割、氏名、団体・役職）

メンバー構成と役割は、当法人の理事会6名は、理事長(弁護士) 法律専門相談中心に、相談員40名、面談同行員20名・支援物資の配布などを率先して行い、250名の多くのボランティア・協力者を有し、地域での居場所での運営スタッフ総勢300名に加え、外部である、児童民生委員が、複合的な課題の多い生活困難者に対し、行政のサービスと連携し、地域で見守る、信州こども食堂ネット150ヶ所をサポートする物心両面の体制で取り組んできた。

また、長野県社協との共同事業はじめ、活動に当たり多くの外部機関・団体と連携してきた。

| 内部/外部 | 評価担当分野 | 氏名 | 団体・役職 |
|---|---|---|---|
| 内部 | 中間評価の実施と報告書案の作成 | 理事会1名<br>相談員1名<br>同行支援員1名<br>運営スタッフ1名<br>職員1名 | 信州こども食堂ネットワーク、スタッフリーダー、<br>社会福祉士・　一般社団法人代表<br>職員 |
| 内部 | 中間評価の実施と報告書案の作成<br>非常食品実践担当 | 学習指導員1名<br>福祉団体1名<br>メディヤ関係1名<br>食育指導員1名 | 学習支援員　食育指導員<br>各プロジェクト代表<br>こども食堂代表<br>報道機関記者 |
| 外部 | 策定アドバイス | 行政関係県担当者<br>市町村関係担当者<br>県内こども食堂代表 | 長野県 関係部局<br>こども食堂ボランティアリーダー |
| 外部 | 策定アドバイス | 会計士<br>税理士<br>社会保険労務士 | 古畑司法会計事務所　税理士<br>信州こども食堂　外部相談員 |
| 外部 | NPOホットライン信州専属<br>防災指導員 | 男性1名<br>女性1名 | 防災士<br>防災士 |





評価委員による、事業検証と冷凍冷蔵庫・倉庫視察





## （3）実施時期　　開始　2023年4月1日　～　2026年2月28日（終了）

# 6.事業の実績　6-1 インプット（主要なもの）

## （1）人材（主に活動していたメンバーの人数や役割など）

○信州こども食堂ネットワークの団体スタッフ及びボランティア
→　こども食堂運営責任者（防災士2名、防災指導員3名）
　　防災担当（防災関係展示、説明）

○県市町村の職員、食支援団体のスタッフ及びボランティア
→　防災担当職員（防災グッズの展示、説明）

○社会福祉協議会等の関係団体スタッフ

○大学・高校等の教職員及び学生
→　防災士を目指している学生が、子ども対象のクイズ担当

○災害関係団体のスタッフ及びボランティア

○ローリングストック物資運搬支援員
→　食材物資運搬担当

団体所属の防災士による個別相談



# 6.事業の実績　6-1 インプット（主要なもの）

## （2）資機材（主要なもの）

①テント…トイレテント、２～３人用テント、５～６人用テント

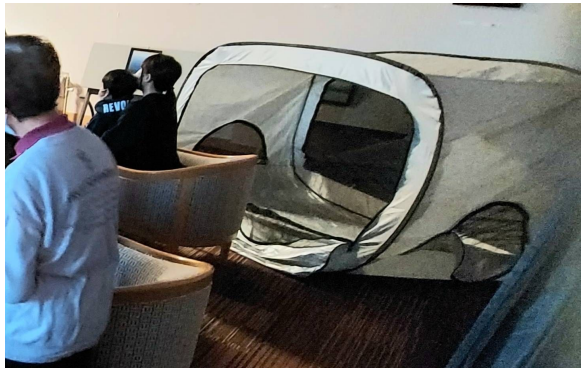
②荷物運搬用車、台車

③バッテリ用電子レンジ






①トイレテント



①２～３人用テント



①５～６人用テント



# 6.事業の実績　6-1 インプット（主要なもの）

**（3） 経費**

①契約当初の計画金額（19,474千円）

- 事業費総額

①実際に投入した金額（16,515千円）

2026年2月14日現在

- 事業費総額

**（4） 自己資金（ 1,256千円）**

①契約当初の自己資金の計画金額（1,256千円）

②実際に投入した自己資金の金額と種類（1,256千円）

③資金調達で工夫した点は、

こども食堂ネットワークの広がりを生かし、小口寄付やマンスリーサポーターの募集を強化し、共感型の継続寄付を充実した。さらに、行政との連携事業や委託事業を組み合わせることで一定の資金を確保し、災害時にも機動的に活用できる体制を整えた。また報告書や広報媒体を通じて成果を可視化し、透明性を高めたことが信頼向上につながり、新たな支援者獲得の好循環を生んだ。

資金だけでなく物資・人材・情報を含めた「官民連携型資源循環モデル」を構築するための努力が最大の工夫であった。




**防災士による、太陽光発電機材の説明**

# 6.事業の実績　6-2活動とアウトプットの実績

**1-①-1　各地域で、災害・防災対策のこども食堂の開催する**
**1-①-2　平時の防災ネットワークができる**

**②指標**：
・防災をテーマにした「こども食堂」の開催回数および参加者数
・開催プログラム（非常食・防災食や防災グッズ体験の提供等）の数
・ネットワーク構築の実績

**③目標値／目標状態**：

・炊き出し未来による実習体験を県内5ヶ所で継続

・防災グッズなどを活用した避難訓練とグッズ体験

**④実績値**：

・防災をテーマにした「こども食堂」の開催回数および参加者数

（開催回数　1,080回／参加者数　9,600人／プログラム数　468数）

・ネットワークを活用して開催した防災がテーマの「こども食堂」数（26ヶ所）

**【実績値追記】**
・災害時の避難場所に県内7カ所設置済み

1：まるこ福祉会＠上田市
2：信州こども食堂inしおじり＠塩尻市片丘
3：松本駅前記念公園前と信州こども食堂in松本学び塾
4：安曇野市エルサあづみ野屋上＆三郷公民館
5：堀金村 ほりで一ゆ～四季の郷
6：BASE＠箕輪
7：長野ダイハツ松本店

# 6.事業の実績　6-2活動とアウトプットの実績

**2-①-1　2-①-2**
**・信州こども食堂ネットワークを核とした支援物資の拠点を構築する**
**・支援対象者にローリングストックの物資をていきょうする**
**・災害時支援物資受入配送ネットワークを構築する**

**②指標**：
・フォローとケアの基盤としての支援物資配送拠点数
・ローリングストックの実施世帯数
・災害時支援物資受入配送ネットワーク数

**③目標値／目標状態**：
・県内5ヶ所（長野・松本・箕輪・上田・19号被災地）を
　支援物資の物流拠点とする

・各家庭にローリングストックを行う

**④実績値：**

・支援物資配送拠点の数（13ヶ所）

・ローリングストックの実施世帯数（600世帯 2,186人）※事後評価時

・災害時支援物資受入配送ネットワーク数（14）

**【実績値追記】災害時支援物資の物流拠点**

1：本部倉庫拠点＠松本市寿北
　大型冷凍冷蔵庫設置、防災時の拠点
2：まるこ福祉会＠上田市
3：長野市三本柳西(にっこりFDB)
4：安曇野市三郷小倉(信州こども食堂in安曇野)
5：塩尻市片丘(信州こども食堂in塩尻)
6：岡谷市長池小萩(学び舎)
7：上伊那郡箕輪(みんなの学校)

# 6.事業の実績　6-2活動とアウトプットの実績

**2-②-1　2-②-2**
**・「こども食堂」や近隣に避難場所を設置する**
**・地域住民の防災意識向上のための活動を実施する**

**②指標**：
・「こども食堂」における避難所設置の試行数
・防災チラシ配布等の活動実績数
・利用者等に対する意識調査の実施




**③目標値／目標状態**：
・各子ども食堂や近隣に災害・防災時の避難場所を設定し「こども食堂」を開催
・地域住民の災害に対する準備への気づき（防災意識）ができている

**④実績値**:
・「こども食堂」における避難所設置の試行数 8
・防災チラシ配布等の活動実績回数　116回（対象者数　延べ　1,426人）
・利用者等に対する意識調査の実施　158回（対象者数823世帯 3,186人）

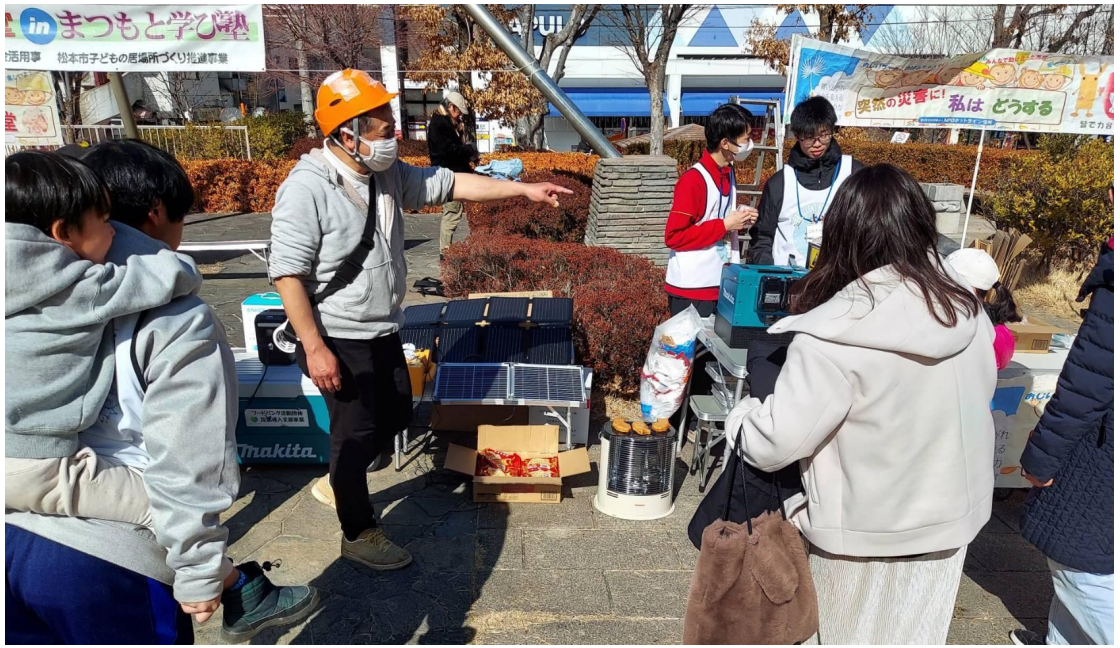
# 6.事業の実績　6-2活動とアウトプットの実績

**2-③-1　2-③-2**
**各地域の拠点のこども食堂が中心となり、各種団体、企業、行政の連携・協働する**

**②指標**：
・ネットワーク数
・連携企業・団体数

**③目標値／目標状態**：
・災害時に強いネットワークが構築されている
・企業・団体と連携が出来ている

**④実績値:**
・ネットワーク数　（18）
・連携企業・団体数（42）



# 6.事業の実績　6-2活動とアウトプットの実績

**3-①-1　3-①-2**
**各こども食堂での災害時を想定した災害弱者　(子ども・お年寄り・障がい者など　)への**
**個別相談体制がされている**

**②指標**：
・平時から個別相談を実施する「こども食堂」数
・災害弱者に対する相談体制構築のための取り組み数

**③目標値／目標状態**：
・「こども食堂」でのイベントや拠点により、災害弱者
　への周知がされている
・災害弱者に対する相談体制ができている

**④実績値：**
・平時から個別相談を実施する「こども食堂」数（32）
・災害弱者に対する相談体制構築のための取り組み数（46）



# 6.事業の実績　6-3外部との連携の実績

## ◆企業連携：バロー

**6月9日(日)・7月14日(日)・8月11日(日)の**
**「信州こども食堂 inバロー南松本店」**は、
子ども208名を含む約331名と過去最高の大賑わいでした🤗

スーパーマーケットでの防災対策は必須であり、ことあるごとに防災コーナーを設置して、防災の取り組みを常に行っています。

試食＆食材配布や啓蒙活動を行っています😍。お母さんは、買い物ができ、親子で楽しい有意義なこども食堂として、
「大満足感を味わっています」🤷

### スーパーマーケットで防災対策コーナー設置

松本市 信州こども食堂 in バロー南松本店






# 6.事業の実績　6-3外部との連携の実績

## ◆企業連携：ほりでーゆー

松本市の「笑和はうす」こども食堂、12月6日開催。子ども9名含む26名が参加。『災害時、どうする』をテーマに NPOホットライン信州より、防災士の中島さんを招いて、非常用持出袋や新聞で身体を温める方法など学びました。



その後13時に、**震度6の大地震が起きた！**
想定で、ほりでーゆの避難所に避難しました。テントを張って、会議室に布団を敷いて、避難所体験。夕飯と朝食には温かいお弁当と**温かおにぎり**に味噌汁。温泉まで入れて、身も心も温まりました😊

### 突然災害時の食と避難所-宿泊体験
＜松本市 笑和はうす＞





メニューは、豚 汁 、ハンバーグ、オムレツ、大根サラダ、大根の味噌がけ、さつまいも、みかん、防 災 食 のひだまりパン🍞

災 害 時には、幼 児の夜泣きが激しいので、大 人・子ども・トイレ 用テントを活 用して宿 泊 体 験しました。





防災グッズの取り扱い説明など

# 6.事業の実績　◆企業連携：ダイハツ

長野ダイハツ販売(株)松本店で、2月23日(月祝) 10時～300名が参加の「信州こども食堂 in ダイハツ松本店」を開催。

　貴社は、初めて実施する地域交流型場として、子育て家庭の防災と生活支援を組み合わせた、突然の災害への備えや地域のつながりづくりを推進しました。









◆ NPOホットライン信州主催の信州こども食堂は、生活支援と防災学習を同時に体験できる内容として、日用品・食材配、お米（5kg＆2kg）お菓子を無料配布 。

◆ 野外では、突然の災害に対応した、キッチンカーによる（やきそば・豚汁など）太陽光発電とバッテリー、ガス利用のたい焼き・おにぎり、発熱剤利用の牛丼やクッキーづくりの配布、更には、防災食set・レトルト食品の配布、非常時用トイレの組立体験による携帯トイレの配布などの防災体験を実施。














# 6.事業の実績　6-3外部との連携の実績

## ◆福祉団体：まるこ福祉会

NPO ホットライン信州は、「突然の災害に、私はどうする!!」と問いかけ、災害時での食糧備蓄の必要性やトマト・たまごなど食べ物や食べ方などを説明した。











# 6.事業の実績　6-3外部との連携の実績

## ◆福祉団体：BASE＠箕輪



10月14日(月祝)防災交流施設みのわBASEにて信州こども食堂ネットワークみのわの集いを開催しました。NPOホットライン信州が主催となり、第一部では、県民文化部様、みらい基金様、県社協様をお招きし、箕輪町役場、箕輪町社協、子どもの居場所運営団体、一丸となってネットワークの構築を図りました。

第二部の子ども食堂は子ども65名、大人58名の総勢123名が参加。社会福祉法人ふれあいにて提供して頂いたお弁当と、ピザーラ様からご提供頂きましたピザを配布させて頂きました。防災食の試食と配布も大変好評でした。第三部は防災謎解きを実施し、参加者にはお菓子を配布しました。

防災について学びながら楽しんで頂けました。こども会議も行い、「安心して過ごせる居場所とはどんなところ？」をテーマに議員と役場の子ども未来課と討論して頂きました。ネットワークの構築ができ、とても素敵な集いだったねと声を掛けて頂けました。

**突然の災害に対応した、官民連携のネットワーク**

信州こども食堂ネットワークみのわの集い

「みのわBASE」は、災害時には地域の防災拠点となり、平常時には防災について学び、交流することができる施設です。

実際に災害時に使われる設備が整っている場所で防災イベントを行うことで、もしもの時の行動を具体的にイメージしながら学ぶことができます。

この場所でイベントを開催することは、防災を“知識”として学ぶだけでなく、“自分ごと”として考えるきっかけづくりにつながります

# 6.事業の実績　6-3外部との連携の実績

## ◆行政連携：みさとの集い

安曇野市三郷公民館において防災フェスタを開催しました。
当日は、行政首長をはじめ、防災担当職員の皆様にもご参加いただき、防災対策に関する取組や現状について共有が行われました。

また、当法人所属の高野防災士（こども食堂×防災士）より、日常生活の中で実践できる防災対策の重要性について、市民および行政関係者に向けて提言を行いました。

本イベントを通じて、行政と市民が連携し、平時から防災意識を高め、地域全体で備えることの重要性を改めて確認する機会となりました。



# 6.事業の実績　6-3外部との連携の実績

## ◆地域市民参加イベント：ハロウィンこども食堂

「地域市民参加イベント：ハロウィンこども食堂」において、防災について考える時間を設けました。

まず、アンケートや意見交換を通じて、参加した市民の皆さんが自分の考えや不安を自由に話せる機会をつくりました。

その後、家族や地域ごとに話し合いを行い、それぞれの立場から防災についての意見や工夫を共有しました。

話し合いの結果をもとに、地域として大切にしたい課題や取り組みを整理し、無理なく実践できる内容について確認しました。

対話と共有を大切にしながら進めることで、市民参加型の防災意識づくりにつなげることができました。



# 7.アウトカムの分析　短期アウトカム

**1-①**
**全県各地域で、こども食堂を核として、災害時には防災ネットワークが機能し、地域で支援活動ができる状態になる**

**②指標**：
・防災ネットワークの核になる「こども食堂」の箇所数（災害テーマ開催回数、参加人数）
・災害時に避難場所対応が出来る「こども食堂」の機能の状況

**③初期値／初期状態**：
・防災ネットワークの核としての「こども食堂」0

**④目標値／目標状態**：災害テーマ開催回数、参加人数

**⑤アウトカム発現状況（実績）**

県内各地域のこども食堂を核とした防災拠点化が進み
体制強化ができた。

**⑥アウトカムの達成度**

（達成／未達成／達成度合いを明記する）
開催・参加とも増加し、目標達成ができた。



# 7.アウトカムの分析　短期アウトカム

**2-①**
**子どもや災害弱者のフォローとケアなどが出来る地域になっている**

**②指標**：
・フォローとケアの基盤としての支援物資配送拠点における災害支援機能充実の状況
・ローリングストックの活用状況

**③初期値／初期状態**：
・配送拠点における災害支援機能　なし
・ローリングストックの活用　なし

**④目標値／目標状態**：
・信州こども食堂ネットワークを核（センター機能）として全県をカバーする物流体制が構築でき、 災害支援機能が発揮されている。災害支援物資受入配送ネットワークが機能している。
・ローリングストックにより災害弱者の安心感が向上している。

**⑤アウトカム発現状況（実績）**：
・**ローリングストック構築を図るため、** 災害弱者に向けて**150家族525名を対象に行った。**

**⑥アウトカムの達成度**（達成／未達成／達成度合いを明記する）
・開催・参加とも増加し多大なる効果を上げ、目標達成ができた。

# 7.アウトカムの分析　短期アウトカム

**2-②**
**多くの地域住民が災害に対して意識付けができている**

**②指標**：
・災害時に避難所対応ができる体制が整った「こども食堂」の数
（避難場所の設置数・食材の量と内容）
・「こども食堂」が避難所でもあることについての利用者の認知度
（チラシ広報数・アンケート回数）



**③初期値／初期状態**：
・災害時に避難場所対応ができる「こども食堂」の数　0

**④目標値／目標状態**：
・災害時避難場所対応ができる体制が整った「こども食堂」が、
中間評価時より増加している。

**⑤アウトカム発現状況（実績）**
・災害時に避難所対応ができ、弱者支援体制が拡充が図られた。

**⑥アウトカムの達成度**（達成／未達成／達成度合いを明記する）
・当初の達成ができた。

**⑦事前評価時の短期アウトカム**：
・県内5カ所で、こども食堂と避難所併設等に災害・防災時の食材確保の準備がされている。

# 7.アウトカムの分析　短期アウトカム

**2-③**
**各地域の連携・協働（社協、企業、 NPO、地域地縁組織）による災害時に強いネットワークが構築されている状態**

## ②指標：
・２－②の「こども食堂」のうち社協、企業、NPO、地域地縁組織等との連携・協働により運営される数
・連携・協働の実施状況

## ③初期値／初期状態：
・災害支援の観点での連携・協働数　拠点０

## ④目標値／目標状態：
・災害時避難所対応ができる体制が整った「こども食堂」のすべてにおいて、ネットワークに基づく連携・協働が行われている。
・災害時に備えた連携・協働が平時における「こども食堂」の運営充実にもつながっている。

## ⑤アウトカム発現状況（実績）
・社協、企業、NPO、地域地縁組織等との官民連携体制が定着した。

## ⑥アウトカムの達成度（達成／未達成／達成度合いを明記する）
・連携体制が定着し、概ね達成した。

# 7.アウトカムの分析　短期アウトカム

**3-①**
**災害時を想定した災害弱者の個別相談体制がされている**

## ②指標：

・災害弱者に対する相談体制の整備状況（ニーズの把握）

## ③初期値／初期状態

・災害弱者に対する相談体制整備　なし

## ④目標値／目標状態

・行政、社会福祉協議会、支援団体等の窓口との連携の構築や当法人の専属防災士や防災指導員と相談員の確保など、災害時に避難所対応を行う「こども食堂」の相談体制が整備されている。

## ⑤アウトカム発現状況（実績）

・災害弱者に対する相談体制は、24時間365日の受付体制で、3年間1256名の相談を行った。

## ⑥アウトカムの達成度（達成／未達成／達成度合いを明記する）

・相談体制が定着し、概ね達成した

# 7.アウトカムの分析

## （1）助成期間中の出口戦略・事業の持続化に向けた戦略の達成状況について

① 出口戦略の達成状況　⇒　**達成**している。

② 出口戦略の実現に最も影響を与えた要因　⇒　**地域の企業協力体制** が最も大きかった。

## （2）助成終了後の事業の実施見込みについて

①助成終了後の事業規模の見込み：助成開始前と比べ、**拡大**している。

②助成終了後の活動内容の見込み：助成時と比べ、活動内容は**持続拡大**している。

③資金調達状況

現在の財源構成は補助金の割合が大きい。
今後の持続的な事業運営に向けて、企業との協働や賛同者からの寄付など、補助金以外の財源確保を検討していく必要がある。

④人材確保状況：

継続的なイベント開催を通じて活動への認知が広がり、賛同する企業やボランティアの参加が**増えて**きている。

# 7.アウトカムの分析

## 7－2. 波及効果（想定外、波及的・副次的効果　）

本事業では、防災訓練および関連イベントの実施を通じて、当初想定していた成果にとどまらない波及的効果が確認された。

▸安曇野市においては、市および担当部局との連携に加え、民間施設である「ほりで一ゆ～四季の郷」と協働し、災害弱者を対象とした宿泊型避難訓練（約60名）を実施した。これにより、行政と民間が平時から連携する関係性が構築されるとともに、温泉施設を活用した「民間施設型避難拠点モデル」が形成された。結果として、公的避難所以外の新たな避難先の選択肢を地域に提示することができた。

▸長野ダイハツ松本店においては、店舗内外の広いスペースを活用し、災害時の避難場所を想定した300名規模のこども食堂を開催した。あわせて、ハイブリッド車からの給電を活用した調理の実施や、支援物資の運搬を行うことで、「給電・調理・物資運搬」を組み合わせた支援モデルを実証した。これにより、企業が保有する設備や車両を防災資源として活用できる可能性が明確になった。

**【総合】**

**以上の取組を通じて、行政・民間・企業による協働体制が進展し、避難拠点の多様化および防災資源の活用方法の拡張が図られた。これらは、地域防災体制の実効性を高める波及的・副次的効果であると評価できる。**

# 7.アウトカムの分析

## 7－3. 出口戦略・事業の持続化に向けた戦略の成果

本事業では、事業終了後を見据え、持続的な運営体制の構築を出口戦略として位置づけ、複線型財源の維持および官民連携による運営基盤の強化に取り組んだ。具体的には、企業協賛の拡大および継続寄付の強化を通じて、単年度依存型ではない安定的な運営モデルの形成を目指した。

企業連携の面では、バローと連携し、食料確保と連動した「こども食堂」を継続的に開催するとともに、今後は開催規模や回数の拡充を図る体制を整えた。また、「ほりでーゆ～四季の郷」との連携については、「こども食堂」の開催を継続しつつ、避難場所としての宿泊体制の実践を重ねることで、民間施設を活用した避難拠点モデルの定着を目指している。さらに、長野ダイハツとの連携により、店舗内外の広いスペースの活用およびハイブリッド車の給電機能を活用した取組を継続し、他店舗への展開も見据えたモデル形成が進んでいる。

あわせて、「災害＝家庭」という視点に立ち、ローリングストックの定着を図る取組を継続的に実施することで、平時から地域住民が防災行動を実践し、有事の際には地域の災害支援活動の担い手となる基盤づくりを進めている。

事業計画については、固定的な計画としてではなく、その時々の社会状況や地域課題に応じて、ロジックモデルおよび事業計画を柔軟に修正していく方針とした。本事業で構築したロジックモデルを活用し、関係者との継続的なコミュニケーションを図りながら、事業の社会的意義を内外に示しつつ、事業のスケールアップを図っていく。

# 7.アウトカムの分析

## 7－4. 事業の効率性

本事業は、既存の信州こども食堂ネットワーク約150か所という基盤を最大限に活用し、新たな拠点整備を一から行うのではなく、既存資源を強化・拡張する形で展開した点において、高い効率性を有している。

中間評価から事後評価にかけて、防災をテーマとした開催回数は620回から1,080回へ、参加者数は4,800人から9,600人へと大幅に増加し、限られた人的・財政的資源の中で、事業の波及効果を拡大することができた。

また、支援物資拠点や相談体制の整備についても段階的に拡充が進み、個別相談を実施するこども食堂は12か所から32か所へと増加した。既存の相談支援体制、フードバンク機能、行政との連携実績を組み合わせることで、重複投資を抑制しつつ防災機能を付加することが可能となった。

これにより、平時と有事の取組を一体的に運用できる持続可能な仕組みへと発展させることができ、本事業は効率性の観点からも大きな成果を上げたと評価できる。

# 8.成功要因・課題

## 1. 社会課題解決に貢献したアウトカム（ 成功要因 ）

本事業において特に社会課題解決に寄与したアウトカムは、既存のこども食堂ネットワークを基盤として、行政・企業との連携を構築し、防災と生活支援を一体的に提供する仕組みを形成できた点である。
これにより、平時の見守りや支援活動が、有事の防災対応へと円滑につながる持続的な地域支援基盤の構築が進んだ。

この成果の要因としては、本事業が新たな拠点整備に依存せず、既存のこども食堂という地域資源を活用した点に加え、事業実施期間中に行政および企業との連携体制を意図的に強化したことが挙げられる。
これらは本事業による直接的な取組の成果であり、短期アウトカムの達成に大きく寄与したと考えられる。

## 2. 達成が困難であったアウトカム（ 課題 ）

一方で、支援ニーズの拡大に対して、人材不足や運営負担の増大が顕在化し、個別相談の質の確保や地域間格差の是正、安定的な財源確保については、十分な成果を上げることが困難であった。

特に、本来は全県的に専門職を配置し、個別伴走支援やアウトリーチ機能を強化することが望ましかったが、人材および財源の制約により、必要な水準まで体制を整備することができなかった。

## 3. 要因の検証（ 事業要因と外部要因 ）

これらの課題については、本事業の設計上の限界に加え、外部的要因として、支援ニーズの急増や、地域における担い手不足といった構造的課題の影響も大きかったと考えられる。
すなわち、短期アウトカムが十分に達成できなかった要因は、本事業の取組のみならず、社会的背景や人材確保環境といった外部要因の影響を受けた結果である。

# 8.成功要因・課題

## ★調査結果から見えてきた課題

・**第一に、支援ニーズの拡大に対して、担い手および専門人材が不足している点**　である。
こども食堂を基盤として、防災機能、生活支援、相談支援といった役割を重ねることで、地域における支援拠点としての機能は高度化した。一方で、運営体制は依然としてボランティアへの依存度が高く、継続的な運営や専門性を要する支援への対応には限界が生じている。特に、個別相談や伴走支援を担う専門人材の確保が十分でないことが、支援の質の維持・向上における課題となっている。

・**第二に、地域間格差の存在** である。
拠点整備の進捗状況や行政・関係機関との連携体制には地域ごとの差が見られ、相談対応力や物資供給体制の水準にもばらつきが生じている。このことは、居住地域によって受けられる支援内容や支援の到達度に差が生じる可能性を示しており、今後は支援体制の均質化と底上げが求められる。

・**第三に、安定した財源の確保が困難** である点である。
現状では単年度の助成金に依存する運営構造となっており、中長期的な視点での人材配置やICT環境の整備が進みにくい状況にある。また、要支援世帯の早期発見やアウトリーチ機能についても十分とは言えず、行政、福祉機関、学校等との情報共有や連携の仕組みを、より一層強化する必要がある。

以上の課題を踏まえると、今後は、専門職の配置および担い手の育成、広域的な連携体制の構築、さらに持続可能な財政基盤の確立が不可欠である。これらを一体的に進めることにより、地域における防災・生活支援・相談機能を兼ね備えた支援体制の安定的な運営が可能になると考えられる。

# ９.結論

## 総合自己評価

本事業は、生活困窮世帯への支援と地域防災力の強化という社会課題に対し、既存のこども食堂ネットワークを基盤として展開する事業設計であり、課題およびニーズに対する適切性は高かったと評価できる。新たな拠点整備を行うのではなく、既存の地域資源を活用する設計とした点は、効率性および実現可能性の観点からも妥当であった。

短期アウトカム指標として設定した、防災をテーマとした開催回数、参加者数、相談拠点数はいずれも事業期間中に増加しており、事業成果は概ね達成されたと判断する。特に、平時に実施している食支援や見守り活動を、有事の防災対応へと接続する仕組みを構築できた点は、本事業の重要な成果であり、地域における持続的な支援体制の基盤形成に寄与した。

一方で、支援ニーズの拡大に伴い、人材不足や運営負担の増大、ならびに地域間格差といった課題が残された。これらは本事業の取組のみで解消できるものではなく、地域の担い手不足や専門人材確保の困難さといった外部的要因の影響も大きいと考えられる。

事業費および活動内容の調整については、当初想定を上回る支援ニーズの拡大に対応するために実施したものであり、事業目的およびアウトカムの達成に資する合理的な変更であったと自己評価する。アウトカムの方向性についても、「生活支援」と「防災」を一体的に捉える枠組みを維持しており、変更の妥当性は確保されている。

以上より、本事業は、課題やニーズに対する適切な事業設計のもと、実施状況および成果の達成状況において一定の成果を上げたと評価できる一方、今後は専門人材の確保、地域間格差の是正、持続可能な財政基盤の構築といった課題への対応が必要である。

# 9.結論

## 9-1社会的インパクト評価の構成要素別自己評価

| | 多くの改善の余地がある | 想定した水準までに少し改善点がある | 想定した水準にあるが一部改善点がある | 想定した水準にある | 想定した水準以上にある |
|---|---|---|---|---|---|
| (1)課題やニーズの適切性 | | | ○ | | |
| (2)事業設計の整合性 | | | | ○ | |
| (3)実施状況の適切性 | | | | | ○ |
| (4)事業成果の達成度 | | | | ○ | |



<信州こども食堂ネットワーク便り> 2025年01月18日 No.1369

おいでよ いっしょにたべよ

信州こども食堂ネットワーク

物価高騰止まらず
災害時対策家庭に

松本市 信州こども食堂 in まつもと学び塾

2月28日（土）、松本市の「信州こども食堂 in まつもと学び塾」は、長引く物価高騰で苦慮している子ども 124 名と家族 183 名が突然の災害に対応した、非常食の牛丼や鯛焼き、ハンバーグ弁当、クッキーお菓子などを手に災害時対応を学んだ。

衣類の有効利用をするおさがりコーナー

▲ 支援物資の受付けに並ぶ長蛇の列

▲災害時の行動の知識を学び家族ら…

令和8年(2026年)3月1日 日曜日 市民タイムス

こども食堂 防災学ぶ場に

備蓄食品の試食 太陽光パネル展示 知識増やすクイズ

ホットライン信州が力

非常食の牛丼や鯛焼き、ハンバー
五目ごはん、クッキー、パンなどを
「美味しい～」と食べる子育て家族

太陽光発電からレンジによる美味しい「たい焼き」

<編集>信州こども食堂ネットワーク事務局

無料相談・問い合わせ フリーダイヤル 0120-914-994 特定非営利活動法人NPOホットライン信州

ホームページ http://hotline-shinshu.jimdo.com/ 各地での報告や開催日程などをご覧いただけます

# ９.結論

## ９－２　自己評価の判断根拠について

**・第一に、短期アウトカム指標の達成状況である　。**

防災をテーマとした「こども食堂」は、ネットワークを活用して26か所で実施され、事業期間中の開催回数は延べ1,080回、参加者数は延べ9,600人に達した。また、防災に関するプログラムは468プログラム実施され、継続的かつ多様な取組が各地域で展開された。

事業開始時点（約3年前）には、こども食堂は約100か所存在していたものの、防災拠点として機能していた拠点は2か所にとどまっていた。これに対し、事業期間を通じて、防災訓練（テント設営、災害食の提供等）を実施する拠点が増加し、防災を意識した活動がネットワーク全体に広がったことが、開催回数および参加者数の増加という形で客観的に確認された。

**・第二に、事業の実施過程において、平時の食支援と有事の防災対応を接続する仕組みを構築できた点である。**

既存のこども食堂ネットワークを活用し、行政、企業、福祉関係機関との連携を強化したことで、日常的な見守りや食支援が、災害時の支援活動へとつながる体制が形成された。これは、本事業において実際に行った防災イベント、物資備蓄、相談対応の取組を通じて具体化された成果である。

**・第三に、支援ニーズの増大や物価高騰といった外部環境の変化に対し、事業内容および予算配分を柔軟に見直しながら継続実施できた点である。**

当初計画に基づく一律的な実施にとどまらず、現場の状況を踏まえて活動内容を調整したことにより、事業の継続性と実効性を確保することができた。

# 9.結論

さらに、量的成果に加え、質的変化についても確認された。
具体的には、ローリングストックに関する理解度について、現場スタッフや参加世帯へのヒアリングおよびアンケート調査を実施した結果、「家庭内での備蓄を意識するようになった」「備蓄品を定期的に見直すようになった」といった回答が得られ、防災に対する意識の変化が一定程度認められた。

以上のとおり、防災をテーマとした「こども食堂」の開催回数1,080回、参加者数9,600人、実施拠点26か所、プログラム数468という定量的データに加え、ヒアリングおよびアンケート結果といった定性的情報を総合的に踏まえ、本事業は一定の成果を達成したと判断した。



# 10.本事業で取り扱った活動を発展させるための提言

## ① 平時と有事をつなぐ拠点機能の強化

各こども食堂および各家庭を、防災拠点として位置づけ、平時の食支援や交流活動を通じて、災害時の行動につながる学びと実践の機会を地域全体へ広げていく。これにより、「日常支援」と「非常時対応」を接続する仕組みを地域に定着させる。

## ② 官民連携を支える中核組織と人材育成

官民をつなぐ中核組織が、伴走支援および人材育成を担い、防災士・防災指導員・スタッフリーダー等の配置を進めることで、役割の明確化と分担の最適化を図る。あわせて、専門人材の確保と地域間格差の是正に向けた支援体制を整備する。

## ③ 持続可能性と展開性を見据えた基盤整備

安定的な財源の確保、助成金の多角化、継続寄付の拡大を進めるとともに、本事業で得られた成果をモデル化し、他地域への展開や行政による政策・制度化へとつなげていく。

# 11.知見・教訓

## ①「役割分担」ではなく「共に手を動かす場づくり」の有効性

多くの活動現場において、防災をテーマとした炊き出し訓練、避難所運営ゲーム、防災食ワークショップなど、参加者が実際に体験しながら学ぶプログラムを実施した。その結果、行政関係者、ボランティア、住民、支援団体といった立場の異なる関係者が、上下関係や役割の違いを超えて同じ作業を行う機会が生まれ、心理的な距離が縮まった。平時から「支援する側・される側」という構図ではなく、「一緒に備える仲間」として関係性を築くことが、地域の協働体制形成に有効であることが確認された。

## ② 地域のキーパーソンを巻き込むことの重要性

自治会役員、防災士、商店主、介護・福祉事業者など、地域で日常的に住民と関わりを持つ関係者を積極的に巻き込むことで、事業への理解と協力が広がった。特に、福祉事業者や商店主など、災害時にも重要な役割を担う主体が参画することで、支援対象の把握や物資供給、見守り体制の構築が現実的なものとなった。地域内の多様な担い手を早期から関与させることが、持続可能な防災体制づくりにつながるという知見が得られた。

## ③ 受益者・関係機関との信頼関係構築における工夫と学び

受益者や事業関係者（資金分配団体、JANPIA、専門家等）との信頼関係構築にあたっては、活動内容や課題を定期的に共有し、成果だけでなく課題や改善点も開示する姿勢を重視した。また、現場視察や意見交換の機会を設けることで、事業の実態への理解が深まり、建設的な助言を得ることができた。単なる報告関係にとどまらず、対話を重ねることが、事業改善と相互理解の促進に寄与することが明らかとなった。

# 11.知見・教訓

## ④ 生活弱者が最も被害を受けやすいという実態と対応の難しさ

アンケート調査や現場でのヒアリングを通じて、生活困窮世帯、高齢者、ひとり親世帯、外国人世帯など、いわゆる生活弱者が災害時に最も大きな影響を受けやすい実態が改めて明らかになった。一方で、情報が届きにくい、避難行動が取りづらい、備蓄の余裕がないといった課題も多く、支援の方法には工夫が求められた。本事業では、食支援や日常的な関係づくりを通じて接点を確保し、防災情報を伝える工夫を行ったが、平時からの継続的な関わりが不可欠であるという教訓が得られた。

## ⑤ 評価委員からの意見を通じた多様な取組の必要性の認識

評価委員との懇談や意見交換を通じて、地域特性や対象世帯の状況に応じた多様な取組が必要であるとの示唆を得た。画一的なモデルではなく、地域の実情に応じた柔軟な事業設計が重要であり、複数のアプローチを併存させることで、より多くの層に対応可能となることが確認された。外部の視点を取り入れることが、事業の客観性と質の向上に寄与することも重要な学びである。



# 12.資料 「ローリングストック」アンケート

## 『ローリングストック』について学ぶ！

個々の家庭では【ローリングストック法】
で缶詰などの非常食を日常的に使い、使ったら買い足しする、普段の生活に防災を取り入れる[生活＝共災]の生活様式を啓蒙しました。

1.避難先は家族と共有できていますか

2.避難場所は確認できていますか

3.町内会や近所に頼れる人はいますか

4.近所に手助けが必要な人が居ますか

5.食材や水は、3日分用意されていますか

6.防災グッズは用意されていますか

7.非常食品を食べたり、体験したことはありますか

8.常に一定量の食料を家に備蓄しておく「ローリングストック」をしたい

9.その他

その他として「突然の災害に、私はどうしますか・・・」

日頃思っていることをご自由にお書きください。











ローリングストック「蓄える→食べる→補充する」を繰り返しながら、常に一定の食料を備蓄していきましょう！の呼び掛けました。
その結果参加者は子育て家族中心に、約2年間624家族の2,546人が参加しました。

# 12.資料 「ローリングストック」実施とアンケート

## 『ローリングストック』実施成果

その結果、取り組みの前と後を比べると、

・避難先を家族で話し合って決めた人
・避難場所を確認した人
・水や食べ物を準備した人
・防災グッズをそろえた人

が、大きく増えたことが分かりました。

特に、
「非常食を食べてみる」
「ローリングストック（ふだんの食事を少し多めに買って備える方法）」
については、ほぼ全員の方が実践するようになりました。

また、
「近所で頼れる人がいるか」
「手助けが必要な人が近くにいるか」
を考える人も増え、地域で助け合う意識が高まったことも分かりました。




**ローリングストック食材 ↑**

この取り組みにより、
**“もしもの時のために、家族で話し合い、行動する”ことが広がった”**
といえます。これからも、
・家族で話す
・食べ物や水を少し多めに用意する
・近所の人と声をかけ合うといった、できることから
続けていきます。

**東京都渋谷区から備蓄食品セットなど 2,500 set のご寄贈を受けました**

12月29日(金) ロスリボンセンター様通じて、東京都渋谷区から6ﾄﾝﾄﾗｯｸで届けられた防災食備蓄食品セットなど2,500 setのご寄贈品250ｹｰｽ×10 set 8パレット
(① えいようかん（1本）：② ライスクッキー（12枚入）：③ 玄米がゆ（1袋）：④ トマトリゾット（1袋）1set18個の45,000個の備蓄食品の提供がありました。







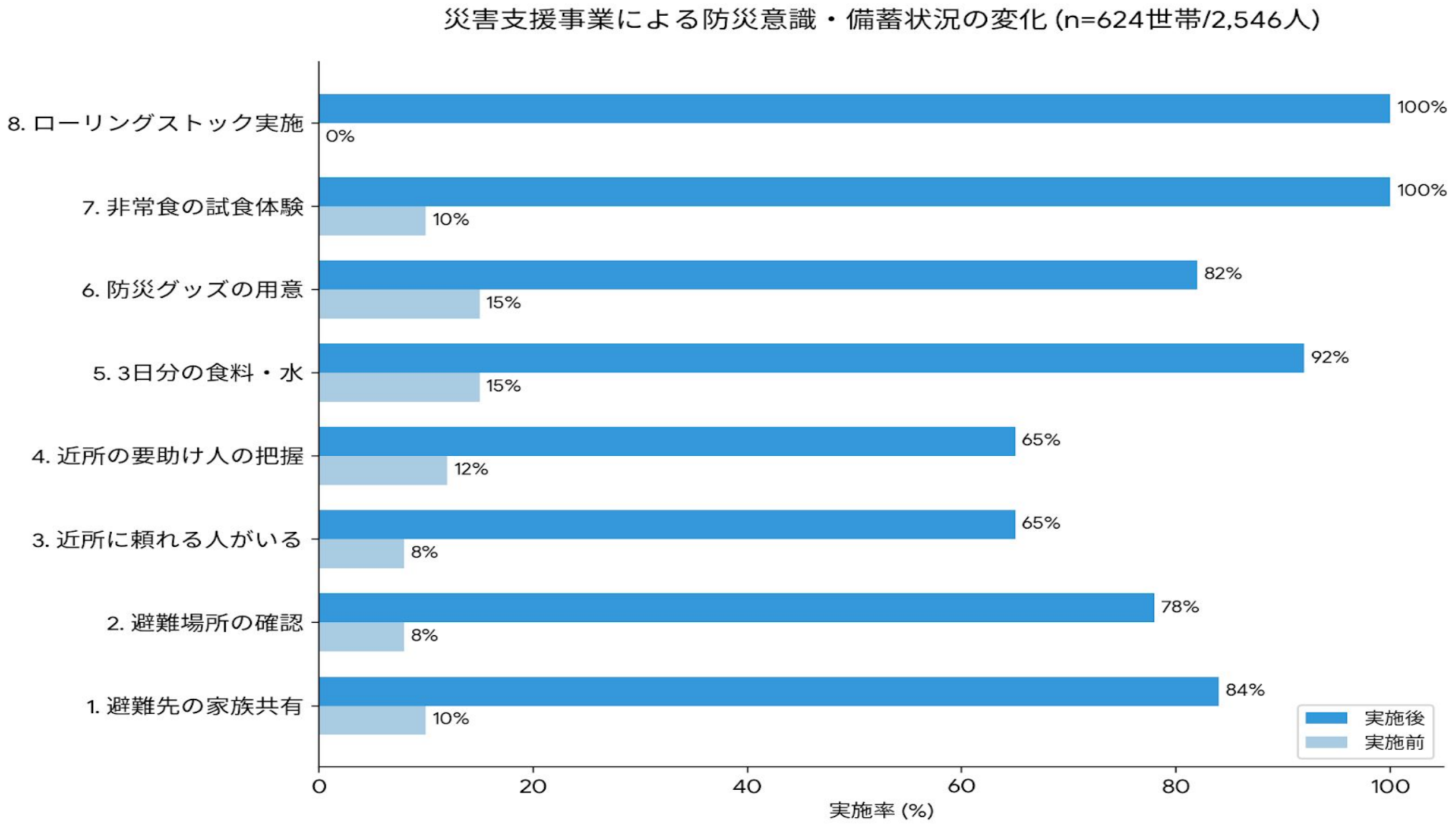




早速！12月30日(火)年越しこども食堂 in 島内を皮切りに各信州こども食堂で配布していきます。

お問い合わせは、NPO ホットライン信州
0120-914-99 に お願いします。

# 12.資料 「ローリングストック」アンケート

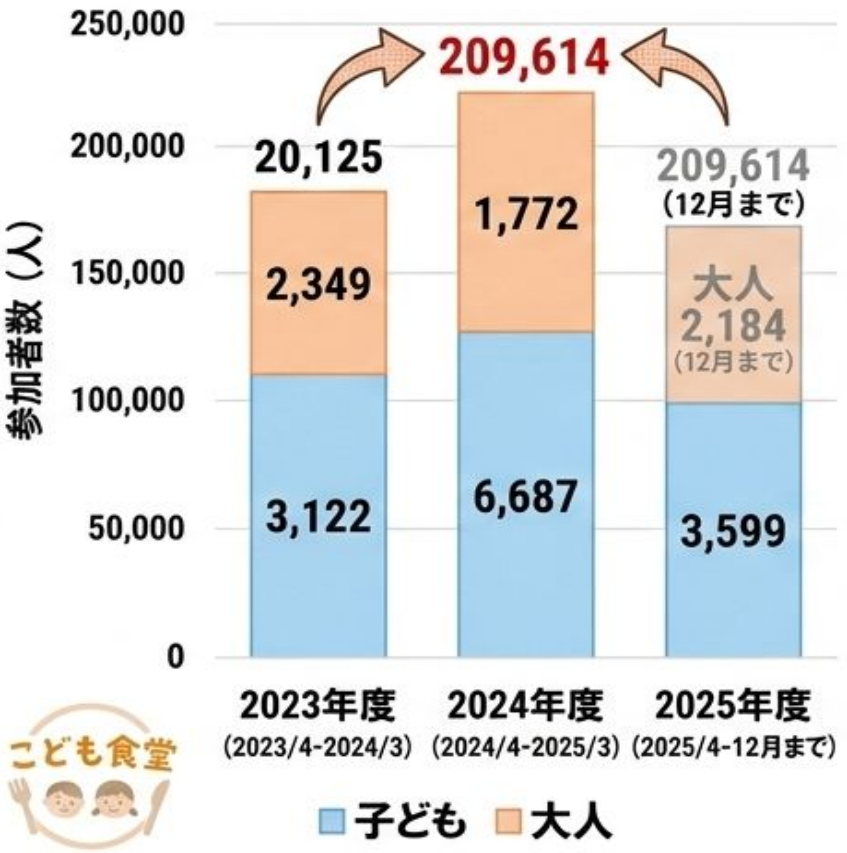


①県内各地域のこども食堂で、非常食を活用して、災害・防災対策について体験する。
信州こども食堂ネットワークを核とした、防災食・グッズなどを活用した避難訓練や避難ルートの確認など信州こども食堂ネットワーク各食堂で開催。
また、必要に応じて、炊き出し未来やレスキューキッチンカーによる実習体験をした。

**参加者延べ人数 209,614人参加**




| 2023年4月～24年3月信州こども食堂者数 | | | |
|---|---|---|---|
| 月数 | 子ども | 大人 | 合計 |
| 4月 | 3122 | 2015 | 5137 |
| 5月 | 3,709 | 2,349 | 6,058 |
| 6月 | 3,012 | 2,012 | 5,024 |
| 7月 | 3,807 | 2,535 | 6,378 |
| 8月 | 3,807 | 2,481 | 6,288 |
| 9月 | 7,763 | 1,650 | 4,413 |
| 10月 | 7,391 | 4,294 | 11,685 |
| 12月 | 2,643 | 2,246 | 6,899 |
| 12月 | 3,110 | 2,064 | 6,872 |
| 1月 | 3,110 | 2,994 | 5,174 |
| 2月 | 2,428 | 1,595 | 4,023 |
| 3月 | 5,330 | 2,931 | 8,005 |
| 合計 | 46,405 | 28,801 | 75,206 |




| 2025年1月～2026年1月　信州こども食堂NT | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 月 | 子供 | 大人 | 合計 | 家族数 |
| 4 | 3,593 | 2,552 | 6,145 | 2,232 |
| 5 | 4,159 | 2,173 | 6,332 | 2,008 |
| 6 | 4,204 | 2,205 | 6,409 | 2,468 |
| 7 | 4,185 | 2,541 | 6,726 | 2,468 |
| 8 | 3,245 | 2,212 | 5,457 | 2,118 |
| 9 | 3,013 | 2,029 | 5,042 | 1,987 |
| 10 | 3,525 | 2,199 | 5,724 | 2,012 |
| 11 | 3,238 | 2,308 | 5,546 | 2,245 |
| 12 | 3,291 | 2,166 | 5,457 | 2,056 |
| 1 | 2,938 | 2,116 | 5,054 | 2,011 |
| 2 | 2,879 | 1,856 | 4,735 | 1,658 |
| 合計 | 38,270 | 24,357 | 62,627 | 23,263 |

**②県内5ヵ所の各こども食堂や近隣に災害・防災時の避難場所を設定し「モデル化」**　・こども食堂と避難所併設等継続「中信地域(地下室含む)」

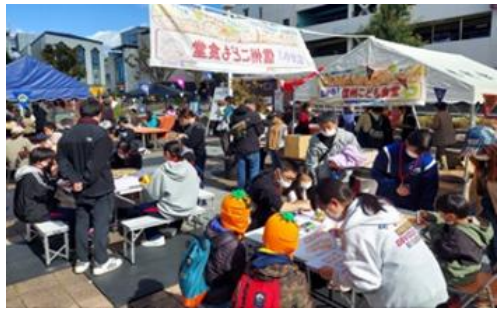






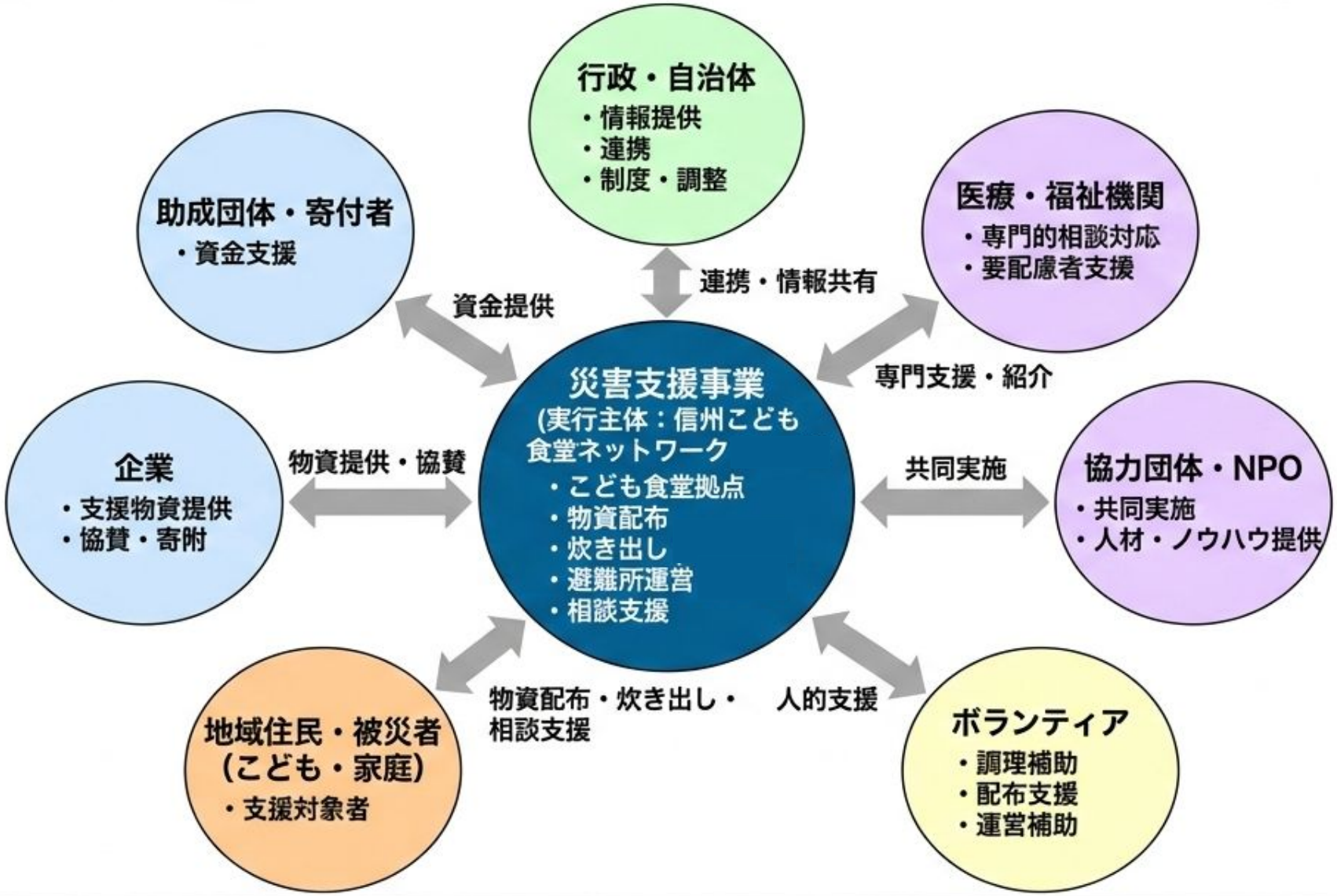






# 災害支援事業におけるステークホルダー及び連携体制




本図は、NPOホットライン信州を実行主体とする災害支援事業におけるステークホルダー及び連携体制を示したものである。
本事業は、こども食堂を拠点として、被災したこども及びその家庭を中心とする地域住民を支援対象とし、物資配布、炊き出し、避難所運営、相談支援等の支援活動を実施した。事業の実施にあたっては、行政・自治体、協力団体・NPO、ボランティア、企業、医療・福祉機関、助成団体及び寄付者等の多様な主体と連携・協働し、それぞれの役割に応じた支援体制を構築した。

特定非営利活動法人
NPOホットライン信州